○議長（藤井　要君）　休憩前に引き続き会議を開きます。

（午後　２時００分）

◇　鈴　木　茂　孝　君

○議長（藤井要君）　一般質問を続けます。

通告順位４番、鈴木茂孝君。

（２番　鈴木茂孝君　登壇）

○２番（鈴木茂孝君）　このたび皆様の支援をいただきまして、貴重な８名の町会議員の内の１名になることができました。皆様のご期待に応えるため全力で頑張ってまいります。

それでは、一般質問を始めます。私は、いくつになっても幸せに暮らせる、住んで楽しい松崎を大きなビジョンとして掲げています。具体的には「つなぐ」をテーマに松崎の産業を次の世代につなぐ、都市生活者と松崎をつなぐ、松崎の子供たちを未来に繋ぐを提案しております。質問は、そのテーマに沿って３ついたします。１つ目は、桜葉産業の振興について、２つ目は、移住定住の促進について、３つ目は高校生への通学費補助制度の創設についてです。

１つ目、桜葉産業の振興について、松崎を代表する桜葉産業、農業を取り巻く厳しい環境、高齢化・後継者不足により栽培量は減少を続けています。昨年度末には、民間企業が撤退するなど、その背景はより厳しさを増しておりますが、その一方撤退した後、引き継いで新たに始めるという動きもあります。町では、桜葉産業の振興を第５次総合計画の重点取組政策と位置づけ平成30年に桜葉振興室を置くなどしてきました。これまでの支援、これからの長期的な方針、今年度の具体的な施策について伺います。

１番、平成30年度に桜葉振興室を新設していますが、これまでの施策について伺います。

２番、桜葉振興について、長期的な方針と今年度の具体的な施策について伺います。

２番、移住定住の促進について。日本全体が少子高齢化となっており、松崎の人口も予想を上回るペースで減少しております。当町としましても、移住による人口増に真剣に取りくまなくてはならないと考えます。国も都会から地域へ、地方へ移住して就労した方に奨励金を出すなど、地方への移住を支援しております。当町の移住定住促進への具体的な施策について伺います。

１番、人口が少なくなると、お店なども減って生活がしにくくなります。そのような危機感を多くの方に持ってもらうためにも、松崎移住促進協議会のような組織を作ってはいかがでしょうか。

２番、現在の空きやバンクの登録件数及び増減の傾向、利用状況について伺います。また、今後、登録数を増やすための施策について伺います。

３番、高校生の通学費補助制度の創設について。松崎の子供たちが、より豊かに育っていく環境を作るため、人口減少の進む松崎において、移住して子育てをしたい、松崎に住み続けて子育てをしたいという保護者の経済的な負担を軽減を目的とする、高校生の通学補助制度創設についての考えを伺います。

以上、３点になります。質問席にて一問一答でお願いします。

（町長　長嶋精一君　登壇）

○町長（長嶋精一君）　鈴木議員の質問に答えます。

まず、大きな１つ目、桜葉産業の振興について。その内の１つ、平成30年に桜葉振興室を新設しているが、これまでの施策について問うでございます。

松崎町民であれば多くの方が「まるけ」をしたことがあると思いますし、その香りは「香り100 選」になっているなど桜葉産業は町の農業遺産といっても過言ではありませんが、その生産量は 40 年前と比較すると大きく減少しており、町としても支援するべく平成 30 年度に桜葉振興室を創設しましたが、桜葉の塩漬事業所の撤退、大島桜の種生産者の廃業、桜葉苗の発育不足、病害虫発生など多くの問題を抱えた船出となりました。

平成30年度の取り組みとしては、それらの解消に当たるとともに、桜葉産業の大きな問題である後継者不足を解消すべく、東部支援学校生徒が将来の後継者になるよう、まず生産者を対象に生徒さんたちとどのように接するかの研修を実施するとともに、種蒔きからの育成に取り組み始めましたし、撤退した事業所を買い取った民間企業の桜葉圃場確保支援などをしてきたところで、桜葉圃場5,000㎡の整備を開始したところでございます。今後も新規参入者の圃場整備には係わっていきたいと考えております。

桜葉の質問２つ目でございます。桜葉新興について長期的な方針、今年度の具体的な施策について伺うということでございます。桜葉産業の大きな問題の一つとして「まるけ」という作業の効率が悪いことが挙げられます。経験が必要な作業ですし、１時間当たり10束まるけても、時間給にして300円程度で、「まるけ」作業者を募集しても集まらないのが現状でこれを解決しないことには桜葉産業の発展はあり得えません。機械化なども検討いたしましたが開

発できる見込みも少ないため、「まるけ」そのものを見直す方向で検討を重ねており、過日、開催された桜葉振興会総会において、束にせず塩漬けする製法などを提案し、繁忙期が過ぎましたら試験的に実施したいと考えております。

現在の「まるけ」製法は200年前から延々と引き継がれてきたもので、農業遺産という位置付けからすると果たしてそれでよいのかという疑問も残りますが、１時間当たりのまるけ量の増加は即、収入に繋がることになりますので生産者、塩漬け業者、和菓子店とも相談しながらチャレンジしてまいります。

次に大きな２つ目、移住定住の促進についての１つ目でございます。多くの人が係わりを持てるように、松崎移住促進協議会のような組織を作ってはどうかという質問でございます。高柳議員の質問にもお答えしましたが、移住定住を促進するうえでは、町だけの対応ではなく、民間組織との連携を図り、移住受け入れ体制を構築していくことが重要であり、効果的であると考えております。そうしたことから、現在、町内で移住定住の促進に向け頑張っている「さとづくり総合研究所」に委託し、移住定住対策を実施しております。

移住相談件数も大きく伸び、きめ細かな受け入れ体制もできていることから、引き続き「さとづくり総合研究所」の皆さんと連携を密にし、随時関係する方の参加をいただきながら、移住定住対策を推進する組織体制の検討を進めてまいりたいと思います。鈴木議員も移住をされて成功してきた方ですが、大変な努力を重ねてきたと思われます。そういった過去の経験を、是非我々にも教えていただいて、移住者が増えるような提案を一緒にどうかしていただきたいとこのように考えております。

移住定住の２つ目のご質問でございます。空き屋バンクの登録数及び増現の傾向、利用の状況について伺います。また、今後、登録数を増やすための施策はどうかという質問でございます。

町では、平成 25 年度から町内における空き家の有効活用と、定住促進による地域の活性化を図ることを目的に、物件情報の登録と提供を行う空き家情報バンク制度を行っております。空き家情報バンクの物件につきましては、現在情報提供いただき登録した 11 件を公開しており、当初の５件から増えております。また、空き家情報バンク利用者登録をしている方は 18 名となっています。

平成 30 年度においては、７件の成約があり６名の移住につながりました。空き家バンクの登録物件を増やすことは重要であると考え、昨年度、空き家改修のための補助金を創設いたしました。また、町内に家を所有し町外に住んでいる方、住民税の家屋敷課税者に対しましては、

空き家バンク制度の周知及び意向調査を行っており、登録物件の増加につなげてまいりたいと思います。

大きな３つ目の質問でございます。高校生への通学費補助制度の創設について。そのうちの一つ、高校生への通学費補助制度の創設の考えについて伺いたいということでございます。

松崎高校に通う生徒のほとんどが自転車か徒歩での通学となっており、西伊豆町や南伊豆町のようにほとんどの生徒がバス通学を余儀なくされるケースと異なるため、通学費を補助するとなると一部の生徒への補助となってしまいます。また、松崎高校とは連携型中高一貫校としてできるだけ多くの生徒に通っていただきたいこともあり、今のところバス通学の補助制度の創設は考えておりません。ご理解のほどよろしくお願いいたします。

以上、鈴木議員の質問にお答えいたしました。宜しく、お願いいたします。

○議長（藤井　要君）　鈴木君に対しましては、一問一答方式での質疑を許可いたします。

○２番（鈴木茂孝君）　今のご回答ですと、平成30年に桜葉振興室ができまして、圃場整備をされていたというようなことですが、圃場整備というのは、特に桜葉振興室を通さなくてもできるものでして、桜葉振興室として何をしてきたかということをお伺いしたいと。再度、お伺いします。

○統括課長（高木和彦君）　圃場整備は確かに個人の方でもできますけども、今回特別なことがありまして、いままで塩漬け業者さんが撤退をして、新しくですね、松崎桜葉商店という会社がそこを引き継ぐようになりました。そこについては、なかなか、そういう圃場を求めるといってもですね、そういうノウハウですとかないものですから、私どものほうで空いている土地を紹介したりですとか、その代わり土地の農地転用ですとか、そういうことについては、ある程度負担をしてもらいましたけれど、そういう準備ですとか、そういう所で携わっております。また、以前にですね、桜葉で使っていた場所なんかありましたので、そこなんかについても、また新たに私ども職員が手を入れてですね、桜葉を栽培できるようなお手伝いをしたところでございます。

○２番（鈴木茂孝君）　ありがとうございます。桜葉振興について、やはり産地というのを継続するためには、大きな視点で、長期的な視点で３年５年10年というような計画を立てる必要があると思うんですけれど、それについてはいかがでしょうか。

○統括課長（高木和彦君）　いろいろ、桜葉の方に携わっていますと、今までの桜葉の産業の構造自体に非常に難しいところがありまして、言ってみれば塩漬け業者さんにですね、生産

者さんを縛っているような感じなところ、ですから塩漬け業者さんが、まるけの賃金なんかを決めるというような、今までの・・・。ですから、町長の答弁の中にもありましたけれども、１時間に10個位しかできないと、そうするとまるけっていうのは、下請けでまるけをやる方っていうのは、1時間に300円の収入しかないんですけども、例えばここが、１時間に10束しかできないけれど、賃金が１束100円になれば時間1000円の収入になると、いろいろな問題がございます。僕らの方も３年５年というスパンでこれからも考えて行きますけれど、その３年５年というスパンで考えているのが、後継者を作ろうということで支援学校の生徒たちに、今、指導さしていただいているところで、例えば、卒業生の中で二人の方が、桜葉産業に入ってくれたと、30年後には60人になるとかっていう計算も単純にできます。そんなことも考えながら、決して目先のことだけではなくてですね、これから10年後20年後のこと考えながら桜葉産業の方をやって行きたいと思います。

○２番（鈴木茂孝君）　今回ですね、桜葉栽培の方に話を聞く中で、今、支援していかなければ、本当に手遅れになるというような話を伺っております。その中で３年、５年、10年という長期的な視野で、それを継続して持って行くためには、何か組織がないと、組織化しないと行けない。例えば松崎桜葉振興会というものがきちんとして組織であるということが必要だと思っています。その中で、生産、そして加工、販売までを全てを網羅できるプロデュサーみたいな一人がそれを全部見てっていうふうな形のものが必要だと思いますけれど、それを桜葉振興室の方がやはりとりあえずはやっていく、その後民間に移るどうかわかりませんけれど、とりあえず町がやっていくということが必要だと思いますけれど、それについていかがでしょうか。

○統括課長（高木和彦君）　桜葉振興室を立ち上げたときに、当初からそのような構想はありました。しかし、なかなかですね、今ある桜葉振興会を中心にということは、もともとの個人で栽培しているというのがありまして、また、桜葉振興室の方にですね、そういう職員をということができれば良いんですけれど、私の方の職員の割り振りも今、５つか６つくらいの係長職は、他の係長とか、課長が兼務しているとかって、なかなか人振りも厳しい状況にあります。なかなか充分なことができなくて申し訳ないですけれど、私も、担当外ということですけれども、そちらの方に携わりながらですね、振興会の方ですとか、産業建設課の課長ですとか、振興室の職員と努力してまいりますので、ご理解を宜しくお願いいたします。

○町長（長嶋精一君）　私は議員のときから、この桜葉に関わっておりました。批評をするんじゃなくて、入り混んでやって行きたいなと思っておりました。というのは、桜葉は需要は

旺盛なんですよ。需要はたくさんあって、だけれども生産が追いつかないというか、生産者が、さっき統括が話したように、生産者が少なくなっているという非常にもったいない話なんですよね。それで、過去は需要を満たすために中国から輸入をして、それでなんとかやっていたという状況だったわけです。中国から輸入してやっているということは、高い価格で販売できないんですね。従って、私の考えていることは、これから生産が松崎オンリーあるいは譲っても南伊豆産。伊豆産ということで松崎ブランドというものを確立していくことが、遠回りだけれども早道ではないか。従って販売額を、ボリュームを追わないと、あくまでも質を追っていく、利益を追っていくということをやっていきたいなと思っています。これは、鈴木議員もお話のとおり、本来ならば中期計画、３年したらこうなる、５年たったらこうなるということの計画がなければ行けないと思っています。そういったことを作ったことがありますが、なかなか役場の・・今、二人でやっているわけですけれどね、なかなか、難しい面もありますけど、やはり中期計画を作って、到達点というのはこうなんだということを明示しなければいけないのかなと思っております。しかし、今ですね、なんでそういうふうに松崎産にブランドにこだわるかというと・・・、

（鈴木　茂孝君「すいません、長いです。」）

○町長（長嶋精一君）　また、得意の長さが始まってしまいまして、この辺でやめますけれど、要するに、生産者の賃金を上げていきたいということなんですよ。生産者の賃金を上げていきたい。そのためには、いろいろな形で生産体制を見直してやっていきたいなと思っております。それで鈴木議員と一緒に、桜葉についても応援していただいてね、宜しく一つお願いしたいと思います。

○２番（鈴木茂孝君）　先ほど、遠回りとおっしゃいましたけれど、まず組織を、きちんとした組織を一つ作る。そしてやっていかないと、何もかもがばらばらになってしまうんですよね。先ほど言われたように、支援学校の子供たちを携えると・・やっていくけれども、最終的にじゃあ、その子たち、個人でやるのかって話になると思うんですよね。やはり何か組織が一つあって、その組織をだんだんだんだん大きくしていくっていうような形を取らなければ、まず、そのシステムを作るっていうのが、非常に難しいんですよ、そのシステムを作るというのは、特にその個人でやっている桜葉農家を束ねてっていうのは難しい。そして漬元も絡んでくるというのはわかるんですけども、まず、そこをやっていかないと、何をやっても最終的に組織がないじゃ無いかというところに戻って行くような気がするんですよね。ですので、ちょっと大変ですけれど、その辺を・・例えば町が、これを仕事としてしっかりや

っていくんだというふうにして、お金を出して、人も出してというふうにやっていくというふうにしていかないと、いつまで経っても補助金を下さい、補助金はあるけれども体制としてなっていかないという形になるんじゃないかなと、そういうふうに思います。

それから、産地の維持という話ですけども、今、やはり高齢になられていまして、なかなか、あと何年できるかっていうような話がたくさんあります。その中で一番大変なのが消毒だそうです。例えばその消毒を、今、若手でやられている方が一名おりますけれど、その方に委託してやってもらうと、その方には、例えば松崎の町から少し補助金が出るとか、一番良いのは、一束いくらというお金をその作業費としてプールして、持続的な仕組みを作っていくというのが一番良いんですけれど、とりあえずはその消毒だけはその人に投げるというふうにやっていけば、もうやめるという人も、あと２年、３年、採るだけならできるよというふうな形になりますので、是非そのようなシステム作りを先にしていきたいなと思っています。

○議長（藤井　要君）　だれに、質問・・。

○２番（鈴木茂孝君）　今のは、これで良いです。次にまいります。

移住定住の促進についてですけれど、さとづくり総合研究所に委託していますという話しではありますが、そこの方にも話しを伺ったんですが、やはりその方だけだと、例えば、お店をやりたいんだという方にはやっぱり商工会の人の方がお店の位置とか、ここが空いているよとかわかりますし、ホテル、民宿をやりたいんだという方には、やはり観光協会の方がこのホテルは、この民宿は空いていますというようなことが、非常によくわかるということで、そのような商工会ですとか、観光協会、役場、有志などで組織した松崎移住促進協議会みたいなものを作って行けば、組織が大きくなれば絡んでくる人も大きくなるということで、たくさんの人が松崎に興味を持って、移住してくるようになるとそういうふうに思っております。是非、これを組織していただきたいというふうに思っていますが、どうです。

○企画観光課長（髙橋良延君）　鈴木議員おっしゃるように、移住定住についてはやっぱり多くの人の関わり、これは本当に重要だと思います。田舎暮らし応援ツアーをやるときに鈴木さんと一緒に私も、当時やったことを今思い出します。そういう中で、いろいろな人の協力を仰ぎながらやってきたということを痛切に感じてます。ですから、先ずは、今、町とさとづくり総合研究所という組織で連携してやってますけれど、その中にいろいろな、随時関係する方に参加していただいてね、それで、これが協議会みたいな組織に発展できれば良いかなと先ずは考えております。ですから、今いろいろ打合せを毎月やっている中に、例えば、

商工会の方に入ってもらったりとか、観光協会の方に入ってもらったりとかということもやりながら、最終的にはそれが協議会みたいな組織という中で出来ていければ良いのかなという形では考えております。

○議長（藤井　要君）　質問の中に持論を混ぜながらやって下さい。持論ばっかり長くなると困りますので・・。

○２番（鈴木茂孝君）　今のような形ですと時間が掛かってしまうので、とりあえず招集をして、やっていくのが一番早いのかなと思います。

次、空き屋バンクの話なんですけれど、登録数がやはりちょっと他の市町に比べても少ないように感じるんですが、その辺についてはどのように考えますか。

○企画観光課長（髙橋良延君）　現在、空き屋バンク登録件数11件。25年度から空き屋バンクを始めまして累計で20件であります。制度の開始以降20件を登録しまして、現在までに９件、いわゆる空き屋バンク利用、成約がされたということで残り11件という形に今現在なっているわけであります。

それで、特に30年度、昨年度は物件登録が14件ありました。そのうち７件利用成約がありまして、大きくそれを伸ばすことができました。30年度については何をやったか申し上げますと、やはり空き家の改修の事業補助を創設したりですとか、あと不動産業者との情報共有、もう一つは先ほど町長が言いました住民税で松崎町に住宅を持っていて町外に住んでいる方がいます。この方、237軒の方に対して空き屋バンクの周知意向調査を行いまして、４軒ほど物件の登録に結びつけることができました。こういったことをやりながら、物件の登録の増加に努めております。

○２番（鈴木茂孝君）　これは提案なんですが、例えば今、空き屋のある方というのはお盆とかお正月に帰って来て、草刈りをして、また帰っていくというような状態の方が凄く多いです。

例えば、まつざき荘の優先予約できるシステムとか、割引クーポンとか、そのような物を出して、松崎にお墓参りしたときにはまつざき荘に泊まって下さいと、その代わりお宅を貸して下さいというような形をとってみるというのはどうでしょうか。

それから、空き屋といっても様々な状態がありまして、補修がいらないもの、補修しないと住めないもの、補修が不可能なものがあるんですけれど、それを色分けというか分類しまして、とりあえず他の市町の見ますと20から30軒くらいは登録をしている市町が多いですから、30軒をとりあえず目標に登録すると、空き屋全部調べるとなると凄く大変になるんです

けれど、やはり30軒を目標に集めようというような目標を立ててやってはみてはどうかと思いますがいかがでしょうか。

○企画観光課長（髙橋良延君）　主に２点ほどございました。まず空きやバンクに登録すればまつざき荘などの特典をつけられるという提案がございました。確かに、空き家賃貸のネックとしては、帰省したときに要は滞在や宿泊先というのは賃貸のネックになっているところであります。そういったことを解消することのためにご提案ということでありますので、今後そういったソフト面ですね、そういったことも検討しながら登録物件を増やしていく、そういったことは考えていきたいと思います。ご提案の一つということで承らせていただきます。

２点目は空き屋の関係で、要は空き家を種類でわけたらというご質問だったと思います。今現在、空き屋物件の登録については人が住めるということは基本的です。その人が住めることの物件を対象に今、公開しているところでございます。この登録に当たりましては当然所有者から詳細な聞き取りをしています。その中で、空き家の状況で補修が必要であるか、あるいは補修は全然必要ないよというようなことを含めましてですね、その家の全ての状況を聞き取りまして空き家の情報の公開、これを全ていたしているところでございます。必然的に再生不可能といいますか、人が住めないというところについては、物件として公開はしていないということでございます。

○町長（長嶋精一君）　先ほど鈴木議員から話しのありました松崎移住促進協議会、これは移住定住の絡みでいいますけれど、非常に良いアイディアだと思います。従って、これについては、さとづくり総合研究所がやっているんだけれどもね、さとづくり総合研究所とそれから商工会、観光協会、それと不動産業者、そういったところと我が方ですね・・、企画観光そういったところと委員会のようなものを作ってですね、やっぱり広がりを持って、情報を多岐にわたって収集すると、そしてやり方をですね、それぞれの方たちの課題を聞きながら、やっていくということは有益だと思います。これは、できるだけ早く取り入れてやってまいりたいとこのように思います。ありがとうございます。

○２番（鈴木茂孝君）　ありがとうございます。私も移住定住やってきましたが、空き家があればとりあえず住むということができます。空き家バンクを充実させることが一番、移住促進の大きなポイントになる・・このように思いますので、今後、具体的な施策を宜しくお願いします。

３番目にまいります。高校生への通学費補助制度の創設についてでございます。松崎町の

平均所得です、239万円というふうに・・これは総務省のデータですが、三島市は343万円であります。100万円以上の開きがございます。さらに、部活等で先ほど中学生の問題がありましたが、遠征するのにやはりお金がかなり掛かってきます。また、これは松崎町だけではございませんが、児童手当、これも中学生までで高校生からはないという状況で、ますます生活費の中における交通費の割合というのは凄く大きくなって、生活もなかなか厳しくなってくると思われます。

西伊豆町と南伊豆町が、高校生への通学費補助を30年度からやっております。そして、今朝の新聞ですが、西伊豆町は通学費補助の補助制度を・・割合を少し大きくするよというなところもあります。確かに、松崎町には松崎高校があって、松崎高校には当然行って欲しいというふうに思うこともわかります。私の娘も二人とも松崎高校ですが、ただ、やはり小さいうちから同じコミュニティで過ごしていて、違うコミュニティに挑戦したいよと、もうちょっと広がりを持たせた交友関係を持ちたいよということで、これは松崎高校が魅力があるとかないとかじゃなくて、下田の方に行ってみたい、三島の方にも行ってみたいというようなお子さんがいるのはしょうがないというか、自然の流れだとそのように思います。近隣の市町がこのような補助制度をしているということに対して、どのようにお考えでしょうか。

○教育長（佐藤みつほ君）　質問にお答えします。補助制度の件でございます。今日、朝の静岡新聞に載っていました。３割か４割の執行率ということですね。それから、そういうことを考えてみまして、そして、その内容を深く検討していこうという町長の方針があります。その中で私たち松崎は、先ほど町長の答弁にありましたように徒歩、自転車、バス、送迎、この４つの形をとっていますね。その中でバス通学・・仁科もそうなんですよ実は。バス通学が中心といっても、やはり自転車通学もいたりとかすることがあるので、執行率が３割か４割ということになっていると思います。

それで、今後どのような対策を練っていこうかという中では、やはり中高一貫の中のソフト面の・・要するにこれは予算的なことはハード面ですよね。ソフト面の中で行くとやはり中高一貫が凄く盛り上がっています。そして進学率も上がっています。中高一貫の中身も濃くしていこうということで、いろいろ職員も生徒も保護者も一体となって、話し合っているところもあったりします。そういった面で、今の松崎町の現状はバスそれから徒歩、先ほどいいましたけれど自転車、送迎その４つを全体的にもう少し考えて検討していきたいと考えています。というのは、例えば、バスは今、議員がおっしゃったとおりバスの補助。それから、もし自転車と考えたときには、今、自転車の事故が大変多くて問題になっていますよ

ね。そうすると、自転車を購入するときに補助ができないものかなというようなこととか、これは一つ一つ、自分で分析して、局長と係長と相談しながやっていることなんですけれど、そういうような自転車に対する対応、新しい物を購入するとき、そういうものができないかな、徒歩については保険関係、あるいはソフト面から、もう少し購入する手立てを図った方が良いんじゃないかな。送迎については、今、三浦地区ではほとんど送迎をみんなで、仲間でしてますよね。そういうようなことがあったりとか、あるいは池代の方から、みんな調べてみると送迎、時には母子家庭の場合、運転免許がない、お母さんがないために本当にに交代でやるとか、そういうような現実があります。そういうふうにした中で、やはり全体を考えてバス通学だけの補助制度ということも、本当に西伊豆も内容を濃くしよう、南伊豆はバス通学しなければ・・それが必須条件になっている。私たち、松崎については４つのことがあると、そういうことを考えて見ますと、やっぱり全体的にもう少し検討していくことと、そして中高一貫をより充実するためには、ソフト面から何かないかなっていうことを、今、丁寧に考えつつありますので、そんなことでございますのでご理解宜しくお願いします。

○統括課長（高木和彦君）　鈴木議員のご質問の中にですね、三島市と松崎町の所得を単純に比較したとこがありますけれど、町の人口の構成、例えば松崎町の場合は年金の受給の方が多い、三島市の方は現役サラリーマンが多いといいますとこの数字というのはだいぶ変わってくるんです。私がちょっと言いたいのは、単純に松崎町の人の全体収入が少ないから、じゃあバスの方を高校生の分をあてがってというよりも、ここで町が考える重要なことは、そういう形で所得も少なければ他の形で、例えばそれが直売所であったりとか、定住なんかについては診療所であったりとかいう形になってきます。また、高校生のお子さんを持ちますと、やっぱりバス通の方に行くと思いますけれど、行政の方としては、全体的に配分してやらなければならないという任務というか、責任もありますので、その辺もご理解いただきたい思います。

○２番（鈴木茂孝君）　先ほど、教育長から前向きな発言がありました。ありがとうございます。ちなみに西伊豆町ですけれど、平成30年度から創設をしまして、松崎高校生には通学費から3000円を引いた３分の１、松崎高校以外には通学費から3000円を引いた４分の１というのを支給しています。大体、月に4000円から6000円位でございます。南伊豆町も平成30年度から創設しまして、通学費の２分の１を支給しています。西伊豆町は予算を706万円くらい取りましたが、80万円くらいの実績でございます。南伊豆町は1600万での予算を取りました

が、850万円の実績でございます。

これはですね、子供を車で送迎する親御さんが多いということに起因していると思います。西伊豆町がなぜこれを見直そうとするふうになったかいいますと、やはりこれは、実情にちょっと合っていないということで申請金額が伸びていないというふうに思います。やはり松崎町がこの後やるのであれば、先ほど教育長が言われたように、徒歩、自転車、バス、送迎というふうにきめ細かいことをやっていくというふうなことが一番・・後からやるのであれば、更に改良したものができるというふうになっていただければと思います。

それから、もう一つ提案というか、もしこういうふうになったら良いというものですけれども、この助成金というか補助制度のお金ですけれど、例えば現金ではなくて、町でも小学校入学、中学校入学・卒業時に子育て祝い金というものを支給しておりますが、そのような形で、例えば支給していけば、地域の中に使うということで波及効果も期待できるということもありますので、その辺もご検討したらどうかと思います。どうでしょう。

○統括課長（高木和彦君）　ちょっと聞き直しになるんですけれど、そういう、ウチの方、節目、節目でやっているじゃないですか、そこを・・、

（鈴木茂孝君「それと同じ形で・・現金で支給ではなくて、地域振興券というふうに思うんですけれど、そういう形の支給で・・」）

○統括課長（高木和彦君）　現金でなくて、同じようなロマン券でやっていることはご存じですよね。

（鈴木茂孝君「わかります。わかります。」）

○議長（藤井　要君）　手を挙げて質問して下さい。

○２番（鈴木茂孝君）　もう一度、お話します。この通学補助制度のお金のことについて、現金ではなくて、例えば子育て補助金みたいなロマン券っていうんですか・・そのような形で子供の教育のために使ってねということでお渡しすることも、地域の経済の活性化に繋がるんじゃないかというようなご提案です。

○統括課長（高木和彦君）　一つの提案としてお伺いします。

○２番（鈴木茂孝君）　もちろん松崎高校を、より魅力のある高校にしていくというようなことも考えなくてはならないと、先ほど賀茂地域教育振興方針ですか・・教育で人を呼び込むというようなお話がありましたとおり、将来的には松崎の子供を松崎高校に来てねということも、もちろん必要なんですが、余所の地域、東京であるとかそういう都会から人を呼び込んで行く、山村留学的なことというのも、将来的には考えて行かないと人口が減っていっ

て、高校が成り立たないということにもなりますし、また、私も松崎町の自然に憧れてこちらに来たんですけれど、松崎町の自然を活かした特色ある授業というものが松崎高校では可能だというふうに思いますので、それで人を呼ぶ、そして子供がいれば親も来ます。親が来れば、もしかしたら移住するかもしれないと、これも一つの移住促進になるかもしれないと、そのようなこともありますので、是非これから・・ちょっとこれは別の機会にお話しをしたいと思いますけれども・・やって行きたいと思います。

最後、まとめですけれど、子供たちの将来の自由な選択の幅を広げるためにも、やはりお金がないからこうってのはなるべく減らして、松崎町は子育て支援を他の地域より良くやっているということもありますので、更に充実したものにしていくためにも、是非ご検討をお願いしたいと思っております。少し、早いですが私の質問を終わらせていただきます。　ありがとうございました。

○議長（藤井　要君）　回答は宜しいですか。

（鈴木茂孝君「回答いただけますか。じゃあ、町長お願いします。」）

○町長（長嶋精一君）　それは理想というんじゃなくて、こういうような町づくり、あるいは学校づくりというものを求めていきたいなと、このように思います。

松崎高校についても、やはりあの、今までと同じようにやるのではなく、個人的に思うと、やはりそれぞれの生徒の特徴を生かしたね、例えば、美容、あるいは料理が好きだとか、観光がすきだとか、そういったものにですね、特色あるようなものを科目を設けてやって行くことも魅力ある高校になって行くんではないかなと思います。これは、私の考えですけれどね、そのように考えます。以上です。

○２番（鈴木茂孝君）　ありがとうございました。また、通学費補助の関係も前向きに、是非検討していただければと思います。ありがとうございました。

○議長（藤井　要君）　以上で鈴木茂孝君の一般質問を終わります。

暫時休憩します。

（午後　２時４７分）